



## カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録 対象：沖縄プログラム第1陣（米国）

### 1. プログラム概要

米国から高校生及び引率者 25 名が 2019 年 12 月 10 日～12 月 17 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

#### 【参加国・人数】

米国：25 名

#### 【訪問地】

東京都、沖縄県

### 2. 日程

12/10(火)	【来日】
12/11(水)	【オリエンテーション】 【日本理解講義】東海大学 アンドラディク美氏 東京都から沖縄県に移動
12/12(木)	【文化体験】沖縄空手会館 【視察・講義】沖縄県立平和祈念資料館・戦争体験講話・平和祈念公園 【文化体験】エイサー体験
12/13(金)	【学校交流】沖縄県立名護高等学校 【ホームステイ対面式】
12/14(土)	【ホームステイ】
12/15(日)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】
12/16(月)	沖縄県から東京都へ移動 【視察】千葉工業大学東京スカイツリータウン®キャンパス 【視察】浅草寺
12/17(火)	【成果報告会】 【離日】

### 3. プログラム記録写真



12/11【日本理解講義】  
東海大学 アンドラディク美氏



12/12【文化体験】エイサー体験



12/12【視察】沖縄県立平和祈念資料館



12/13【学校交流】  
沖縄県立名護高等学校



12/14【ホームステイ】



12/17【成果報告会】

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本の歴史に関する講義は大変有意義なものでした。沖縄での、米軍との戦闘で何が起こったかを知り、大変悲しい気持ちになりました。今後誰もあのようなおぞましい体験をしないように努力しなければいけないという思いを新たにしました。参加者全員が同じ気持ちでいたと思います。学校交流は素晴らしい友情と楽しい笑いに満ちた時間で、米国・日本双方の友だち、ホストファミリーとの思い出深い経験となりました。交流を通じて築いた人間関係はこの先決して忘れられないものとなるでしょう。また新しく友だちになった大好きな人々との縁は大切にしていきたいです。ホストファミリーからはこの上ないおもてなしをいただきました。日本の生活に慣れない私たちが戸惑っていると、いつも進んで声をかけてくれて助けてもらえたことに心から感謝しています。今回、日本に来ることができたこと、日本という素晴らしく魅力的な国を理解する体験ができたことをとても嬉しく思います。

◆ 講義の中で最も印象深かったのは仲村真さん（沖縄平和祈念資料館友の会）による講義でした。他人や他国との関係が緊迫した時に何が起こってしまうのかを学ぶことによって、平和と相互理解の重要性を学びました。学校交流では、清掃の時間に日本文化がいかに団結と責任に重点を置いているかを見て驚きました。生徒たちは全員が自分たちの学校を清潔で綺麗に保つために協力して掃除をしていました。ホームステイは最も楽しいプログラムの一つでした。家庭では皆さんが親切に接してくれましたし、家族がどのように過ごしているのかを見ることもできました。シャワーを浴びている時に、浴室が米国とは全く違うことに気が付きました。まずシャワーで身体を流してから浴槽に入るのです。お父さんはほとんど仕事であまり家にいませんでした。日本人の勤勉さについて以前聞いたことがあったので、このことが頭から離れませんでした。ホームステイ中に温泉（銭湯）にも連れて行ってもらい、日本の「お風呂文化」も垣間見ることができました。

◆ 空手道場を訪問して沖縄空手の歴史を学んだことは、実際の空手体験と並んで忘れられない思い出です。もともと農民が古武術空手で使っていた様々なタイプの道具類の展示は興味深かったです。米国と日本の残忍な戦闘の歴史に言及した平和に関する講話はとても衝撃的でした。現在の日米間の平和的な関係を維持していくことに尽力したいと思いました。エイサー体験はとても楽しかったです。この体験のおかげで自分自身が沖縄の文化にどっぷりとつかることができました。学校交流では沖縄の学校生活がどういものかわかりました。大変興味深く、日本の学校生活を体験できて嬉しかったです。例えば、日本ならではの伝統である生徒たちによる教室の清掃等は、米国の学校生活にも取り入れた方が良くと思ったことの一つです。ホームステイはとても良かったです。日本の家庭料理と伝統的な遊びを体験できました。すべての行事に参加できて嬉しく思いました。

## 5. 受入れ側の感想（抜粋）

### ◆ 学校交流参加学生

チャーチル高校生徒が名護高校に到着した時から名護高校生もチャーチル高校生も再会を楽しみにしていたことが伝わるような雰囲気でした。かるたや折り紙なども楽しんでくれていました。送別会では、さらに仲が深まり、ビンゴゲームで盛り上がりました。カチャーシーをみんなで踊った時は、チャーチル高校生も楽しく踊って全体が一つになったような気がした。この交流会でさらに仲を深めることができ、「かけはし」としてこれからも何ができるのか考えたいと思いました。この交流がここだけにとどまらず、これからも続けてほしいと思いました。

### ◆ ホストファミリー

ホームステイの受け入れ先として、今まで知らなかったビーガン料理等を知り、勉強になりました。皆で浴衣を着たり、抹茶をたてたり、お琴を弾きながら楽しく過ごしました。子供たちは、最初は緊張しておりましたが、英語での説明を聞き、自然な英語が出てくるようになりました。とても良い経験となりました。

## 6. 参加者の対外発信

 <p>Instagram post by michael.more.lke.n. The caption reads: "We went to the Okinawa Peace Memorial Park/Museum and learned of the terrible battles that happened in Okinawa during World War II. We discussed the ways to prevent war in the future and how we can learn from the past. It was beautiful and sad and very important to learn about." The post includes hashtags #jice, #kakehashi19, #japan, #america, and #kakehashi2019.</p>	 <p>Instagram post by ammon.12. The caption reads: "Was fortunate enough to participate in Eisa, a traditional dance from Okinawa that is performed during the Bon Festival to remember, pay respects, and send off the spirits of their ancestors." The post includes hashtags #kakehashi2019, #jice, #usa, #japan, #okinawa1, and #kakehashiward.</p>
<p>沖縄平和祈念公園・資料館を訪問についての発信（Instagram） 沖縄平和祈念公園・資料館を訪問し第二次世界大戦中に起こった恐ろしい沖縄戦について学習しました。将来起こりうる戦争をどのように防ぐか、そして過去からどのように学ぶことができるかについて意見交換をしました。これは素晴らしいことでも悲しいことでもあります。学ぶべき対象としてとても大切なことでもありました。</p>	<p>エイサー体験についての発信（Instagram） 沖縄の伝統芸能エイサーを体験する機会に恵まれたのはとても幸運でした。エイサーは、お盆の時期に祖先の冥福を祈り、魂を鎮魂しあの世に送り出す意味を込めて踊られているのだそうです。</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

# Project 'Peace Together'

From Churchill High School

## After Action Plan

- Why?
  - Promote peace internationally
- When?
  - Upon returning to America
- Who?
  - All Kakehashi participants
- To whom?
  - Everyone we meet
- How?
  - Showing presentations and pictures to classmates
  - Staff meetings
  - Climate action
  - Ethnic diversity group

  


**【グループ1】**  
ソーシャルメディアを活用(Instagram, Facebook 等)して経験を共有する。それを見聞きした人がシェアすることでより大勢の人たちに広がるため。  
校内で発表や報告の機会を設定, あるいは集会を実施することで多くの人の注目を集める。

**【グループ2】**  
今回沖縄を訪問し, 国際的に平和を推進していきたいという思いを新たにした。米国に戻り次第, 参加者全員が会う全ての人たちとこの思いを共有していきたい。  
この活動は一時的なものではなく生涯を通じて進めたいが, まずは2019-2020年度中の実施を目指す。  
日本語クラスの受講者として, 日本語学習の重要性も発信していく。校内でクラスメートたちに対して写真を紹介するなどのプレゼンテーション活動を実施し, 教職員の会合なども活用する予定。また, 学内のみならず学区全体の温暖化防止活動のグループや人種多様性推進グループなどにも出向いて伝えていきたい。